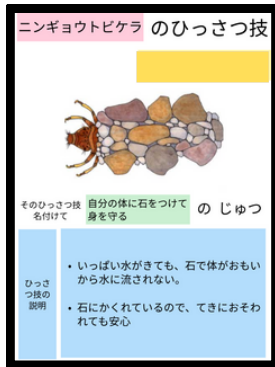


3年生「普光寺川の生物を調査しよう」



①課題の設定

ウシガエルやエビなどの生き物を発見し、どんな生物が生息しているかを調べていくことを決定

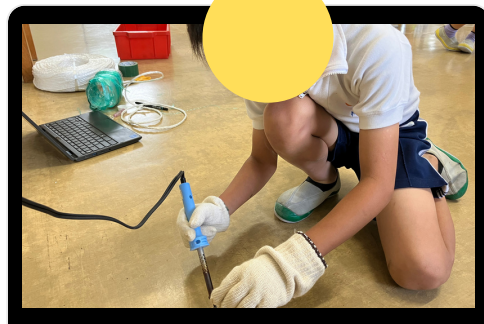


④まとめ・表現

生物の必殺技（特徴を活かしたものなど）をまとめ、クラス内で共有

②情報の収集

「飼育の基本」や「特定外来生物」、採取用ワナについて調べ生物採取の準備



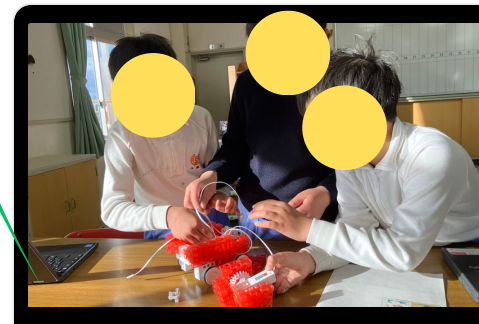
③整理・分析

- ・ 人と自然の博物館紹介の講師を招いて、生物採取（ワナの回収も）
- ・ 生物を観察し、飼育方法を改善

⑨テスト

⑧プロトタイプ

- ・ 説得力が出るよう学んできたことを入れてポスター作成（キャンバ）
- ・ プログラミングで活動を助けるロボットを作成
- ・ 授業参観で学習したことを報告（ロイロノート、劇）

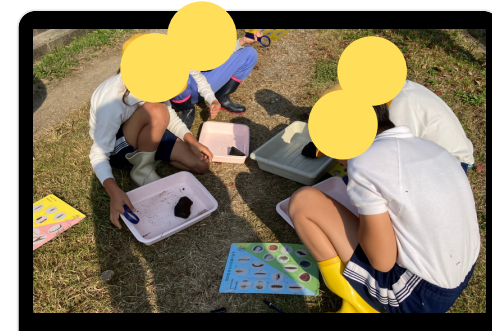


⑦発想

- ・ 2つの調査により、ゴミはあるものの、普光寺川の水は「きれい」という結論を導き出した。
- ・ 川を大切にしてもらえよう自分たちにできることを考えた。

⑤共感

2回目の生物採取を行い、普光寺川に生息する生物の数や種類が減った原因を探っていくことを決定



⑥問題定義

- 水質調査
- ・ 「指標生物」の数を調べる
 - ・ 薬品を用いる



3年生「普光寺川の生物を調査しよう」

☆成果☆

- 生物が苦手な児童もいたが、活動を通して親しみをもつ姿が見られた。
- 飼育経験のない生物の世話、やったことのないワナ作りやポスター作りに挑戦した。また、2学期に採取できた生物の種類が減ったことから仮説を立て、正解が分からない問題に対して、数や数値をもとにした判断に挑戦できた。

(Challenge) (Collaborate)

- 生物の採取と世話（理科）、ワナ作り・ポスター作り（図工）、普光寺川調査について発表（国語）など、年間を通して各教科との関連をもたせながら学習を進めることができた。
- プログラミング学習と自然な形で結びつけることができた。（様々な活動をしてきて「あったらいいな」と思うロボットを個人やグループで創造）(Collaborate) (Create)
- 「人と自然の博物館」を通して紹介してもらった講師の三橋先生が川の生物の幅広い知識をもっておられ、子どもたちがもっていなかった小さな生物（指標生物）への関心をもたせられた。

◆課題◆

- 「普光寺川の生物を調査しよう」というテーマが漠然としすぎであった。正解が分からず、もっと探究したくなるようなテーマが必要である。
 - （解決案）「普光寺川を豊かにしよう」にする。「豊か」について議論が起こり、情報の収集などに必然性が出る。
- 導入であまり活動の必要性をもたせることができなかった。
 - （解決案）ワッショイスクールの方に協力をいただき、導入で昔の様子を語ってもらい、年間の活動の評価をしてもらうようにする。（三橋先生に評価をもらうのもあり）
- 植物と同様に世話に重きをおいた活動（世話をしてでてきた困りごとを改善など）を考えていたが、生物の場合「弱る＝死」となり、採取しに行くにも時間がかかるので、困りごとを解決していくというサイクルが上手く回らない。
- 川に入ることのできるのは9月末ぐらいまでなので、自分たちが考えたことを検証するための生物採取（データ集め）は、それまでに終わらせる必要がある。
- 講師を招いたのが1回であった。バスで校区外に出ないのあれば、お金に余裕があるので、活動の際にさらなる活用をしていけるとよい。